

# 1927 「獣よ、子供よ、街に出よ!」

英語上演・日本語字幕

## 英国気鋭のカンパニー1927が初来日!

演劇?それともアニメーション?

映像、パフォーマンス、ライブ・ミュージックが

融合した、これまで見たこともなかった作品がついに日本上陸!

### 全世界で大絶賛を受ける英国発のカンパニー1927

「アレクサンドル・ロトチェンコがティム・バートンと出会ったとしたら?チャールズ・ディケンズがフリッツ・ラングと出会ったとしたら?20世紀初期のサイレント・ムービーが21世紀のグラフィック・ノベルと出会ったとしたら?」

ガーディアン紙の劇評の一節だが、想像してほしい。思い浮かんだそのイメージが、1927が生み出す作品の世界観だ。

1927は2005年に演出家、劇作家でありパフォーマーであるスザンヌ・アンドレードと、アニメーターでありイラストレーターであるポール・バリットにより設立された。

カンパニーの第1作である「Between the Devil and the Deep Blue Sea」がエディンバラ・フェスティバル・フリンジで絶賛を受け、複数の賞を受賞。ロンドンで2シーズン上演され、3年にわたりイギリス及び、ワールドツアーを行った、と言えばその魅力と実力の程が想像できるだろう。

その後も演劇からオペラまで挑戦的な作品を生み出し続け、観客数は今や延べ75万人以上。作品は5大陸、35か国で上演されている。

### 不気味でカワイイ=「こわカワイイ」独自の世界観

今回、プレイハウスで上演されるのはカンパニーの2作目である「獣よ、子供よ、街に出よ!」。2010年に初演された作品のリバイバル上演となる。1927の作品の特徴はアニメーションや映像と、役者によるパフォーマンス、そしてライブ・ミュージックを融合させていることだ。1作目で確立された



この特徴は、本作でも遺憾なく発揮されている。舞台上のスクリーンに投影されるティム・バートンのような不気味さと可愛さを兼ね備えた白黒のアニメーション。それを背景に動き回る、顔を白塗りにしたパフォーマー。両者の動きはピッタリと合う。さらに生演奏の音楽や歌も加わると、全てが一体となって「こわカワイイ」独特の世界が立ち上がる。イブニング・スタンダード紙は「演劇を好きな人が今まで見たことのないような作品に出会い、上演開始後すぐに心を奪われてしまうという経験はなかなかない。1927はそんな素晴らしい感動を与えてくれた。」と本作を評したが、演劇好きでなくともアニメーションや白黒映画、ダークな物語が好きであれば、心惹かれるものがあるだろう。

### ストーリーと現実世界をつなげる仕掛け

作品の舞台は美しく豊かな街の外れにあるパイユー・マンション。汚くて臭くていかかわしい安アパートは、街の悩みの種。そこにある夜遅く、アグネス・イープスとその娘のイービーがやってくる。希望のないパイユー・マンションに訪れるふたりは希望のサインか、はたまた恐怖の始まりなのか…。

ブラックユーモアが散りばめられたストーリーは、どこかの国のただのおとぎ話としても十分楽しめる。だが、最後の仕掛けがそれを許さない。「アラブの春」の頃に中東で上演した際には、本作品に共感した観客が、大いに感謝したという。不気味な絵本のようなワンダーランドに誘い込まれる私たちも、我が身と周囲を振り返りたくなるかもしれない。

文:佐月麻里

# マサト先生のミュージック・エデュケーション・プログラム ~リズム!リズム!リズム!~

ティーンズのためのクラシック講座

## 子供も大人も楽しめる! トトロ、ライヒ、ボレロ!

多彩な活躍を見せる指揮者、鈴木優人(マサト先生)の指揮・司会、読売日本交響楽団の演奏による

タクト・フェスティバル初のオーケストラ公演が開催決定!

リズムにちなんだ3曲でクラシック音楽の魅力をお届けします。



—— マサト先生、今回の企画意図を教えてください。

**マサト先生** 「音楽なんて、自分で好きなものを聴けばよい!」という思いも持っていて、正直どのような曲を選ぶか迷いました。そこで、僕が学生時代に聴きたかったものを3つ並べました。「クラシック音楽ってつまらない」と思っている若い人もいますが、今回は古臭くなくて楽しめるものになっています。テーマは「リズム」。ハーモニー、メロディと共に音楽を作る3つの要素の一つです。僕らは身体に脈拍というリズムを常に持っているように、歩く時や普段の生活においても大切な要素です。

—— 1曲目は、久石譲「オーケストラ・ストーリーズ となりのトトロ」。

**マサト先生** まずは、誰もが知っている「トトロ」の曲を、フル・オーケストラで聴いていただきます。僕も小学生のころ、映画「となりのトトロ」を楽しみました。世代を超えて愛されているアニメです。田舎の山奥に引っ越してくる話ですが、情景描写における音楽の力がとても大きい。久石さんは、分かりやすい音楽を書いています。大変独創的でもあります。ナレーションが入り、最初に楽器紹介があるので、オーケストラ入門にもぴったりです。テレビなどで活躍している温水洋一さんの語りにもご注目下さい。

—— 次に、ステイーヴ・ライヒ「オーケストラのための3つの楽章」を演奏。

**マサト先生** ライヒは現在82歳のアメリカの現代作曲家。代表作「ドラミング」など、パターン化された音型を反復させる“ミニマル音楽”の先駆者と

して知られています。僕はティーン・エイジャーの頃、ライヒの音楽に出会い「これがクラシック音楽と言えるのか?」とショックを受けました。今の若い人たちにもショックを与えられる曲だと思います。「3つの楽章」は1986年に初演された曲で、通常のオーケストラの配置と異なるのが特徴です。ピアノと打楽器が真ん中に置かれ、オーケストラの中での楽器間のヒエラルキーが変えられています。通常の配置では弦楽器が中心ですが、この曲では中央に置かれた打楽器やピアノが重視されます。これは価値観のパラダイム・シフトです。

—— 3曲目はラヴェル作曲の「ボレロ」。

**マサト先生** 小太鼓が同じリズムを169回繰り返すのが特徴です。そして2種類のメロディのみで作られています。ラヴェル以前の音楽史で、このような構成の曲は存在しなかったので、画期的な作品です。楽器が次々に移り変わり、オーケストラの音色の変化が際立ちます。ラヴェル特有の均整の取れた様式美も感じられると思います。

—— 最後にお客様にメッセージを

**マサト先生** 多感なティーン・エイジャーの皆さんには、この3曲で学校での音楽の授業とは違う体験をしていただけるはず。この機会に「自分の知らないもの」にチャレンジしてほしい。何が好きになるかは自由。皆さんのフリーダムを応援する気持ちで演奏します。皆さん、聴くなら今ですよ!

1927  
「獣よ、子供よ、街に出よ!」  
5月4日(土・祝)～6日(月・休)  
16:00開演 プレイハウス  
詳細はP13へ



マサト先生のミュージック・エデュケーション・プログラム  
～リズム!リズム!リズム!～  
ティーンズのためのクラシック講座  
5月5日(日・祝) 14:00開演 コンサートホール  
(プログラム) 久石譲/オーケストラストーリーズ となりのトトロ  
ステイーヴ・ライヒ/オーケストラのための3つの楽章  
ラヴェル/ボレロ  
詳細はP13へ



ベイビー・ミュージックサロン  
～赤ちゃんと一緒に楽しむ本格的なバロック音楽～  
5月4日(土・祝)～6日(月・休) 10:00開演  
ギャラリー1  
詳細はP17へ



WONDER WATER +  
Rinne + MASK  
サーカスとダンス  
5月4日(土・祝)～6日(月・休)  
ロワー広場 無料  
詳細はHPへ



ひびのこぶエプロデュース  
「いきものブローチ作り」  
5月4日(土・祝)～6日(月・休)  
11:00～17:00  
アトリエイスト  
詳細はP17へ



田中泯  
「場踊り」  
5月5日(日・祝)・6日(月・休)  
12:00～13:00  
劇場前広場 無料  
詳細はHPへ



「ゆるゆる休憩所 モモンガ・ハウス」  
5月4日(土・祝)～6日(月・休)  
11:00～17:00  
アトリエウエスト 無料  
詳細はP17へ



芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー  
アトリウムコンサート  
5月4日(土・祝)～6日(月・休)  
11:00～11:30  
アトリウム 無料  
詳細はHPへ

